

科目ナンバリング		G-AAA05 55101 LB31									
授業科目名 <英訳>		地域研究論 Introduction to Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
通常科学（normal science）とは異なった地域研究の、学としての性格・歴史・成果・展望・課題などについて、研究科教員がオムニバス形式で自己の研究を踏まえて論じます。											
【到達目標】											
地域研究に関する多様な視点を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回「オリエンテーション」（受講学生の自己紹介をおこないます） 第2週以降、地域研究における基本的な視座や問題群と担当教員の専門領域をかけた主要なテーマ、トピックを展開します。 第2回「研究作法入門」 第3回「地域研究のリサーチ・クエスチョン」 第4～5回「地域言語と地域研究」 第6回「学術論文の書き方」 第7回「京大式地域研究の心得」 第8回「地域研究と政治学」 第9回「持続型生存基盤論」 第10～11回「渡航医学」 第12回「地域研究と制度論」 第13回「地域研究とポジショナリティ」 第14回「量的研究と観察・記録・記述」 第15回「フィードバック期間」											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者はその課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を教務掛あてに提出して下さい。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 地域研究論(2)へ続く -----											

地域研究論(2)

随時紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1週の「オリエンテーション」では、受講学生全員が、自己紹介をおこないます。受講生の自己紹介は事前に提出していただき、全教員にあらかじめ配布します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 55102 PB31									
授業科目名 <英訳>		アジア・アフリカ地域研究演習 Seminar on Asian and African Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
地域研究を進めるうえで必要となる、さまざまな研究手法・作法や技術・言語、書籍や地理情報の利用方法を、実習形式で習得することを目指します。											
【到達目標】											
地域研究に関する多様な研究手法を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1～2回「コンピュータリテラシー、ネットワーク（1）」 第3～4回「コンピュータリテラシー、ネットワーク（2）」 第5～6回「文献検索基本演習」 第7～8回「アジア・アフリカ有用植物観察演習」 第9～10回「人の移動と地域研究」 第11～12回「GIS入門（1）」 第13～14回「GIS入門（2）」 第15～16回「質的研究と観察・記録・記述」 第17～19回「フィールドで何を調べるのか：KJ法によるブレインストーミングの練習」 第20～25回「芦生研究林実習」 第26～28回「芦生研究林実習の成果発表」 (本科目は実習を含む3単位科目である)											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要としません。文理融合を前提とする地域研究の基礎的演習であるため、文・理それぞれのバックグラウンドを持つ受講生が、これまで触れたことのない分野を含めて、体験的に学習します。											
【成績評価の方法・観点】											
1．毎回出席をとり、半分以上出席した者に対しレポートの提出資格を認めます。 2．各担当教員毎にレポート課題を出しますので、受講者は、その課題の中から1つを選び、7月末までにレポート（約2000字）を提出して下さい（教務掛まで）。 3．成績は、平常点（50点）およびレポート（50点）を基準とします。											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介します。											
----- アジア・アフリカ地域研究演習(2)へ続く -----											

アジア・アフリカ地域研究演習(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介された手法や文献についての自学自習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

合宿形式で行う芦生研究林実習は、演習の一部ですが、参加は強制ではありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75103 PJ31									
授業科目名 <英訳>		アジア地域研究公開演習 Open Seminar on Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75104 PJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究公開演習 Open Seminar on African Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75105 PJ31									
授業科目名 <英訳>		グローバル地域研究公開演習 Open Seminar on Global Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	5回生のみ	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本研究科で行った研究の成果を、本学他研究科、学外の教育研究機関の研究者、さらには一般市民に公開された研究会・学会やシンポジウム等で発表する。研究発表および質疑応答の要領を実地に学び、担当教員と改善点等について討議する。											
【到達目標】											
自らの研究の成果を聴衆に合わせて説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記の研究発表機会を利用し、研究発表を行う。発表時に同席が可能な担当教員と事前、事後に打合せを行い、発表内容や発表技術について評価を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科内で行われている公開の諸研究会、懇談会、シンポジウム等 ・国内外の学会及びそれに準ずる研究集会等 ・その他、担当教員が適切であると認めた研究集会等 											
【履修要件】											
履修希望者は、前期、後期の各履修登録時に、地域研究公開演習履修登録届（兼報告書）に必要事項を記入して教務掛に提出する。担当教員は、演習終了後、速やかに所見を報告書に記入し、教務掛に提出する。											
【成績評価の方法・観点】											
発表時、担当教員1名の同席を必須とする。											
【教科書】											
随時紹介											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する 随時紹介											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らの研究テーマに関する資料の整理											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85107 LE31									
授業科目名 <英訳>		環境・感染症論 Environment and Infection				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 山崎 渉			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>教員による講義および受講生による発表とそれに基づくグループディスカッションを通して、感染症の発生・伝播に影響を与える要因を理解する。特に環境中の様々な要因、あるいはそれらの相互作用およびその他の要因との関連性の理解を図る。感染症が引き起こす社会変容・歴史的な影響についても理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>感染症を生態学的視点から捉えるために、病原体の生息する自然環境、ヒトの作り出す人為的環境、感染を受けるヒトの抵抗性などの様々な要因を総合的に解析し、理解する能力を修得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回～第9回は講義、第10回～第14回はセミナー形式のレポート報告会、第15回は総合演習になる見込みである。</p> <p>第1回 感染症学習に必要な背景要因（講義） 第2回 水と健康（講義） 第3回 地球環境問題（講義） 第4回 食品衛生（講義） 第5回 人獣共通感染症（講義） 第6回 動物感染症・動物福祉（講義） 第7回 先進国で問題になっている感染症（講義） 第8回 新興国における開発と感染症の関係（講義） 第9回 感染症の分子疫学解析（講義） 第10回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析I（ゼミ） 第11回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析II（ゼミ） 第12回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析III（ゼミ） 第13回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析IV（ゼミ） 第14回 特定の感染症の発生・伝播に影響する要因の解析V（ゼミ） 第15回 総合演習（フィードバック）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>【評価方法】 成績評価は出席姿勢（配分30%）、受講生によるレポート発表（成績評価配分50%）とそれに基づくグループディスカッション（成績評価配分20%）における理解度、積極性、洞察力、意思表示の能力をもとに判定する。 レポート発表のない受講生は未受験扱いとし、成績は無しとする。</p>											
----- 環境・感染症論(2)へ続く -----											

環境・感染症論(2)

【評価基準】

100点満点中、60点以上となること（60点以上：合格 59点以下：不合格）。

【教科書】

教科書は使用しない。講義の内容の理解を補助する資料として、講義の骨子をまとめたプリントおよび学術論文の写し等を必要に応じて配布する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

（関連URL）

<https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/yamazaki-wataru/>(京都大学 東南アジア地域研究研究所)

<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/field/class-16/>(京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 環境生態学)

【授業外学修（予習・復習）等】

配布資料、紹介図書等を活用した予習・復習を推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46
京都大学東南アジア地域研究研究所 本館2階I221号室
山崎 渉
Tel: オフィス (075) 753-9618, ラボ (075) 761-2700
Fax: (075) 761-2701
Email: yamazaki@cseas.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 55124 FJ31									
授業科目名 <英訳>		臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域の全体像を理解するために必要な現地語の習得を目標として、受講生が現地に行き、そこで専門性の高い語学トレーニングを受ける。											
[到達目標]											
地域の全体像を理解するために必要な現地語の基本的事項を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員が設定した語学習得プログラムに沿って学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員とともに現地での語学習得計画を立てる（講義2回分） ・現地にて40日以上滞在して語学トレーニングを受ける（講義12回分） ・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回分） <p>（合計15回）</p>											
[履修要件]											
<p>1.2年次に40日以上渡航した者。証明を添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。</p> <p>https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf</p>											
[成績評価の方法・観点]											
渡航後に教務掛へ提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。											
[教科書]											
受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>受講者の言語レベルに合わせて主指導教員から紹介する。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
現地に赴くまえに、対象語学に関連した情報を収集して予備的な知識の蓄積が必要である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 75125 FJ31									
授業科目名 <英訳>		臨地語学演習 On-site Practical Language Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域研究の成果を国際的に発信する力の強化を目標として、受講生を各々の研究分野に最もふさわしい研究機関等に派遣し、そこで専門性の高い研修・発表を行う。											
[到達目標]											
自ら行った地域研究の成果を国際的に発信することができる。											
[授業計画と内容]											
派遣先の研究機関等で、受講者の研究に関する専門性の高い研修・発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員とともに現地での語学学習計画を立てる（講義2回相当分） ・指導教員とともに国際集会での外国語発表を準備する（講義3回相当分） ・現地にて国際集会に参加し外国語での発表を行い議論への参加をする（講義9回相当分） ・帰国後に指導教員とともに報告書を作成する（講義1回相当分） （合計15回）											
[履修要件]											
国際研究集会において日本語(留学生は母国語)以外で研究報告等した者。プログラム、報告論文、参加証等の写しを添付。この科目の単位付与方法の詳細については、下記のサイトを確認のこと。 https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchigogaku-1-2.pdf											
[成績評価の方法・観点]											
渡航後に提出する報告書（臨地研究報告書）にもとづいて、主指導教員が評価を行う。											
[教科書]											
受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[参考書等]											
（参考書） 受講者の研究の進展に合わせて主指導教員から紹介する。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
派遣先に赴くまえに、自らの研究成果を整理し、派遣先で会う研究者に説明できるように準備が必要である。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 55131 PB31									
授業科目名 <英訳>		研究発信トレーニング Training on Research Presentation I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授		藤倉 達郎 高橋 基樹 古澤 拓郎	
配当 学年	1,2回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
海外で学術調査をおこなうための研究計画書を作成する諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による研究計画書作成するための技術を獲得するとともに、計画書作成を通じて今後の研究の方向性や具体的なすすめ方をより明確にしていくことをめざす。											
【到達目標】											
海外で学術研究調査を実施する際に必要な研究計画書が作成できるようになる。また、そのことを通じて研究の方向性や具体的な進め方を明確にする能力をみにつける。											
【授業計画と内容】											
(A) 以下の項目にそって講義と指導をうける（講義4回相当分） ・海外学術調査をおこなううえで研究計画書を作成することの重要性、および学術調査を予定している国および地域に関して事前に収集すべき情報について。 ・研究計画書を作成するうえで重要な研究目的、調査対象、調査方法、および調査日程をより具体的に検討していく方法。 (B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文研究計画書を作成する（講義4回相当分） (C) 和文調査計画書を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で研究計画書を作成する（講義4回相当分） (D) 受講生全体で、各受講生の研究計画書を発表する。それに対して、担当教員が講評をおこなう（講義3回相当分）											
【履修要件】											
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。											
【成績評価の方法・観点】											
講義への出席、和文と外国語による研究計画書の作成・提出、発表会への参加を加味しながら、担当教員が評価する。											
【教科書】											
適宜指示する。											
----- 研究発信トレーニング (2)へ続く -----											

研究発信トレーニング (2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
適宜指示する。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に調査研究対象とする地域・国に関する基礎情報を予習しておくこと。
研究計画書を作成して発表に臨むこと。発表の際に受けたコメント・助言に応じて修正を施して復習とすること。

(その他(オフィスアワー等))

この講義は、研究計画書作成技術のトレーニングを目的としているため、この講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から研究内容について綿密に指導を受けて研究計画書を作成すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75132 PB31											
授業科目名 <英訳>		研究発信トレーニング Training on Research Presentation II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	藤倉 達郎	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	高橋 基樹	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	古澤 拓郎
配当 学年	3-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
海外で自らの研究成果を発信するために必要な諸技術を実習形式で習得することを目的とする。外国語による高いレベルの口頭発表の技術を学び、その作業を通して研究者として必要な自己表現の方法や必要な外国語能力を修養する。													
【到達目標】													
母国語以外の言語で開催される国際学会、シンポジウム、ワークショップ等の研究集会において研究の成果を発信することができるようになる。													
【授業計画と内容】													
(A) 以下の項目にそって講義と指導を受ける（講義4回相当分） ・海外で口頭発表するにいたるまでの準備についての講義と指導。 ・外国語で口頭発表をおこなううえで重要な資料準備の具体的な方法および留意的についての講義と指導。 (B) 第1～4回をふまえたうえで、指導教員とともに和文による口頭発表のための資料準備をおこなう（講義4回相当分） (C) 和文の口頭発表資料を完成させたうえで、指導教員とともに外国語で発表資料を作成する。担当教員が適宜個別に指導をおこなう（講義4回相当分） (D) 受講生全体で、外国語による口頭発表会をおこなう。担当教員は、各受講者の口頭発表に関して技術的な講評をおこなう（講義3回相当分）													
【履修要件】													
特にないが、予備論文提出前の院生を想定して講義をすすめる。													
【成績評価の方法・観点】													
口頭発表資料の作成・提出、発表会への出席およびその発表内容・発表技術を加味し、担当教員が評価する。													
【教科書】													
適宜指示する。													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する 適宜指示する。													
【授業外学修(予習・復習)等】													
口頭発表をおこなう研究成果の内容と発表構成を、事前に母国語によって十分に準備しておくこと。													
(その他(オフィスアワー等))													
この講義は、外国語による口頭発表技術のトレーニングを目的としているため、講義の進捗状況にあわせて、各受講者は各自の主指導教員から発表内容について綿密に指導をうけて口頭発表資料を作成すること。													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA05 85133 LB31									
授業科目名 <英訳>		リスク公共関連論 Risk and society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 特定准教授 西 真如			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>This course deals with issues concerning health risks with particular reference to theories and discussions in medical anthropology. We will explore how the diverse values and beliefs of people in different parts of the world affect the outcomes of some public health interventions. We will discuss the relevance of health interventions by comparing the perspectives of various stakeholders, including policymakers, experts, community members, and patients.</p> <p>The sessions will be conducted in English. The lecturer will guide non-native English speakers to become more comfortable to express opinions in English to participate actively in the classroom discussion.</p>											
【到達目標】											
<p>This lecture aims at providing graduate students with skills and knowledge for arguing theoretical and practical issues that emerge at the intersection of culture and medicine.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Part I. Lecture Lesson 1: Culture, health, and health interventions Lesson 2: Health and cross-cultural encounters Lesson 3: Technologies of global health Part II. HPV vaccination for scheduled tribes in India Lesson 4: Discussion Lessons 5-7: Presentations Lesson 8: Wrap up lecture Part III. Living with epilepsy in Africa Lesson 9: Discussion Lessons 10-12: Presentations Lesson 13: Wrap up lecture Part IV. Wrap up discussion Lesson 14: Wrap up discussion</p>											
【履修要件】											
Basic ability to communicate in English.											
【成績評価の方法・観点】											
Grading is based on contribution to the class, presentation and class reports.											
----- リスク公共関連論(2)へ続く -----											

リスク公共相関論(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

To be furnished by the instructor.

[授業外学修(予習・復習)等]

Registered students are required to come prepared to participate in classroom discussion, having finished reading assignments.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 75134 OB31											
授業科目名 <英訳>		院生発案国際共同研究 International Research-Group Program for Graduate Students				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	藤倉 達郎	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	高橋 基樹	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授	古澤 拓郎
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態		使用 言語	日本語及び英語		
[授業の概要・目的]													
地域研究の諸課題について、分野・地域横断的に、院生が主体となって国際共同研究グループを組織して国際ワークショップなどを企画する。													
[到達目標]													
地域研究の諸課題についての国際共同研究グループの組織・運営および成果発表とその準備の過程をつうじて、国際的な研究交流および研究経営の能力を身につける。													
[授業計画と内容]													
(A) 院生の主体的な発案によって国際研究グループを組織し、参加する（講義4回相当分） (B) 担当教員と指導教員とともに国際研究集会の企画と発表の準備を行う（講義4回相当分） (C) 国際研究集会を実施し、研究成果を発表する（講義4回相当分） (D) 報告書を作成する（講義3回相当分） その後、学術誌等において成果を発表していくことが望ましい。													
[履修要件]													
臨地演習の単位を取得済みであることが望ましい。													
[成績評価の方法・観点]													
プログラムへの積極的な取り組みとその達成度を評価する。													
[教科書]													
特に定めない。													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学修(予習・復習)等]													
選択した課題およびその関連テーマについて、広く予復習を求める。 自らの研究関心にとどまらず、地域や分野を超えた関連テーマについて積極的に学ぶ姿勢が求められる。													
(その他(オフィスアワー等))													
プログラム実施の詳細は臨地教育支援センターの定めるところによる。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA05 85135 LE31									
授業科目名 <英訳>		地域研究と比較政治学 Area Study and Comparative Politics				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 Pavin Chachavalpongpun			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火2	授業 形態		使用 言語	英語
【授業の概要・目的】											
<p>This course focuses on a wide range of literatures on comparative politics. In keeping with the spirit of comparative political science, most lectures involve a key paired comparison of two countries. We will also demonstrate how paired comparisons are changeable, given the types of questions one is pursuing. We will concentrate on six countries in Southeast Asia: Indonesia, the Philippines, Malaysia, Vietnam, Thailand and Burma. To fulfill the purpose of this course, we will discuss key themes from a comparative perspective, including the study of institutions, state formation and state-society relations, types of regime, political culture, political economy, and resistance and revolution.</p>											
【到達目標】											
<p>To encourage students to think beyond the normative understanding of "Southeast Asia" and look into critical contemporary issues facing the region--issues that had their historical origin. Also, to expect student's active participation in class discussion, from the students' viewpoint that may challenge and contest the normative understanding of this region.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Class Schedule</p> <p>1. Introduction</p> <p>2. Southeast Asia: Natural Region or Production of Power/Knowledge?</p> <p>Donald Emmerson, “ ‘ Southeast Asia: What ’ s in a Name? ” Journal of Southeast Asian Studies (March 1984).</p> <p>Duncan McCargo and Robert H. Taylor, “ Politics, ” An Introduction to Southeast Asian Studies, ed. Mohmmmed Halib and Tim Huxley (1996).</p> <p>3. State Formation and Colonialism</p> <p>John S. Furnivall, The Fashioning of Leviathan: The Beginnings of British Rule in Burma (Canberra: The Australian National University Press, 1991).</p> <p>4. Nationalism and Southeast Asia</p> <p>Benedict Anderson, Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism (London: Verso, 1992).</p> <p>5. Southeast Asia and the World</p> <p>Benedict Anderson, The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World (London: Verso</p>											
----- 地域研究と比較政治学(2)へ続く -----											

地域研究と比較政治学(2)

1998).

6. Military Rule: Burma and Indonesia

Mary Callahan, "Burma: Soldiers as State Builders," in Muthiah Alagappa (ed) *Coercion and Governance: The Declining Political Role of the Military in Asia* (2001).

Vince Boudreau, *Resisting Dictatorship* (2004), ch 4.

Adam Schwarz, *A Nation in Waiting: Indonesia in the 1990s*, ch 2.

7. Democratic stagnation: Thailand and the Philippines

Baker and Phongpaichit, *A History of Thailand*, chs 6,7.

Abinales and Amoroso, *State and Society in the Philippines* (2005), ch 8.

8. Party Rule: Vietnam and Malaysia

William Case, *Politics in Southeast Asia* (2002), ch. 4.

Gareth Porter, *Vietnam*, ch. 1.

9. Authoritarianism and Separatism

Jacques Bertrand, *Nationalism and Ethnic Conflict in Indonesia*, ch 8.

Ivan Molloy (1988) "The Decline of the Moro National Liberation Front in the Southern Philippines," *Journal of Contemporary Asia*, 18, 1.

10. Democratisation: National/Local, Rural/Urban Struggles: Philippines and Thailand

Abinales and Amoroso, *State and Society in the Philippines*, chs 9 and 10.

Anek Laothamatas, "A tale of two democracies: Conflicting Perceptions of elections and democracy in Thailand," in Robert Taylor (ed.), *The Politics of Elections in Southeast Asia* (1996).

John Sidel, "Democratisation and Bossism in Contemporary Thailand and the Philippines," *IDS Bulletin*, 27, 2 (April 1996).

11. Democratisation: Stalled: Burma and Vietnam

Benedict Kerkvliet, "Village-State Relations in Vietnam: The Effect of Everyday Politics on Decollectivisation" (*Journal of Asian Studies*, 54, 2, 1995).

Kyaw Yin Hlaing, "The Politics of State-Society in Burma," *South East Asia Research*, 15, 2, 2007).

地域研究と比較政治学(3)へ続く

地域研究と比較政治学(3)

12. Democratisation: Now That He ' s Gone... Indonesia and Malaysia

William Case, " Malaysia: New Reforms, Old Continuities and Tense Ambiguities, " Working Paper Series, No. 51, Sep 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Vedi Hadiz and Richard Robison, " Neo-Liberal Reforms and Illiberal Consolidations: The Indonesian Paradox, " 2003, available at <<http://www.cityu.edu.hk/searc>>.

Meredith Weiss, " What a Little Democracy Can Do: Comparing Trajectories of Reform in Malaysia and Indonesia, " Democratisation (14, 1, 2007).

13. The Military

Mary P. Callahan, War and State-Building in Burma (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

14. Social Movements

Vincent G. Boudreau, Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia (London: Cambridge University Press, 2005).

15. Legitimacy

Muthiah Alagappa, ed., Political Legitimacy in Southeast Asia (Stanford, CA: Stanford University Press, 1995).

【履修要件】

Each student is required to read the week ' s assignment in its entirety before coming to class. (The books/articles are available at the CSEAS library.) Each student will write a 2-3 page critical review essay on one of the readings to be submitted the day before class (so I can read it and prepare my comments). If you fail to submit the essay on time, you need not appear in class. One student will be assigned to lead each week ' s discussion. The reflection essay is not a mere summary of the book/article. It should contain at the very least:

- The book ' s or books ' main thesis/theses (or in other words, what is the author trying to convince us of?)
- The manner in which the author supports the thesis (or how the author uses evidence to support his/her arguments)
- Other issues that are raised as supplementary themes or sub-themes
- The significance of the book(s) to Southeast Asian studies and to comparative politics

Your essays should examine the themes more in depth than the readings allow. They should be comparative in scope; that is, compare and contrast between two countries.

【成績評価の方法・観点】

The student grade is divided into the following: essays (50%); contribution to class discussion (40%); attendance (10%)

地域研究と比較政治学(4)へ続く

地域研究と比較政治学(4)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism* (London: Verso, 1992).

Benedict Anderson, *The Spectre of Comparison: Nationalism, Southeast Asia and the World* (London: Verso 1998).

Vincent G. Boudreau, *Resisting Dictatorship: Repression and Protest in Southeast Asia* (London: Cambridge University Press, 2005).

Mary P. Callahan, *War and State-Building in Burma* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2005).

Pavin Chachavalongpun, *A Plastic Nation: The Curse of Thainess in Thai-Burmese Relations* (Lanham: University Press of American, 2005).

Noorhaidi Hasan, *Laskar Jihad: Islam, Militancy and the Quest for Identity in Post-New Order Indonesia* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 2007).

Paul D. Hutchcroft, *Booty Capitalism: The Politics of Banking in the Philippines* (Ithaca, New York: Cornell University Press, 1998).

Andrew MacIntyre, *The Power of Institutions: Political Architecture and Governance* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2002).

Alfred W. McCoy, *An Anarchy of Families: State and Family in the Philippines* (Madison: University of Wisconsin Press Center for Southeast Asian Studies, 1993).

Vicente Rafael, ed. *Figures of Criminality in Indonesia, the Philippines and Colonial Vietnam* (Ithaca, New York: Cornell University Southeast Asia Program, 1999).

James C. Scott, *The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia* (New Haven and London: Yale University Press, 1977).

James C. Scott, *Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed* (New Haven and London: Yale University Press, 1998).

James C. Scott, *Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance* (New Haven and London: Yale University Press, 1985).

地域研究と比較政治学(5)へ続く

地域研究と比較政治学(5)

[授業外学修（予習・復習）等]

Sometime students will be requested to study out of class and will be assigned to read class materials, to make a summary and possibly to make a presentation in class later.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85136 LB31									
授業科目名 <英訳>		開発生態論 Development and Ecology				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア大陸部における農村開発や環境保全、資源利用を題材として、私たちが研究に取り組む際にどういう視点を持ちうるのか、研究課題に対してどういうアプローチをとりうるのか、研究成果を誰に対してアピールしうるのか、などについて議論しながら、受講生自らが考えることをめざします。											
【到達目標】											
地域社会の特性を理解し、それを汎用性の高い文脈に位置づけ、普遍的な論理で発信できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。ただし学習の理解度に応じて、変更される場合がある。また受講生のニーズに応じて英語での講義とする場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ラオス農山村の長期土地利用変化 2．タイ東部の天水田水稲作の高度経済成長下の変容 3．ベトナム北部山地の森林回復 4．ラオス山地部の焼畑システムと土地管理 5．インドネシア・スマトラ島のジャングル・ラバー 6．タイ南部の沿岸域利用とカキ養殖 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
出席状況と授業における討論に対する積極性により評価する。											
【教科書】											
適宜、資料を配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する 随時紹介する。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
適宜、指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は、(kono@cseas.kyoto-u.ac.jp)までメールすること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85138 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域情報学概論 Introduction to Area Informatics				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教 山口 哲由 アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教 飯田 玲子			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドから得られる情報には、衛星画像などから得た地理情報や質問票調査の結果といった量的なもの、インフォーマントのナラティブデータや参与観察の記録、史資料などの文献データといった質的なものもある。地域研究では、これらの性質の異なるデータを統合しながら、一つの地域イメージを作り出すことが重要になる。本講義では、研究を構築するうえでの「データ」に焦点を当て、事例に基づいてその取得や分析の手法に関する理解を深める。											
【到達目標】											
フィールドワークで得られる情報の多様性を知り、それぞれの情報の特性や調査・分析の手法を学ぶことにより、自らの研究目的にはどういった調査手法が適しているのか、また、論文執筆の場面ではどういった分析手法が必要なのかを選択できる力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション：地域情報学とはなにか？											
第2回 フィールドワークでGISを使う（導入）											
第3回 GISを使って調査地の地図を作る											
第4回 自作の地図をスマホに取り込む											
第5回 自作の地図を持って歩いて測る											
第6回 GISを使って調査地を測る											
第7回 GISを使って地形を見る											
第8回 GISを使って景観の今昔を再現する											
第9回 定量データと定性データ											
第10回 インタビュー調査の基本											
第11回 ナラティブデータを取る											
第12回 ナラティブデータを分析する											
第13回 調査地に掛かる資料検索の方法											
第14回 聞き取り調査とGISの統合											
第15回 総括：地域情報学を研究に活かすには											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(20%)と学期末のレポート(80%)により、到達目標の達成度を基準に評価する。合格者のうち、A+は10%、Aは20%、Bは30%、Cは30%、Dは10%の割合を目安とし、Aのうち極めて優れた者はA+とする。但し、学修の効果が認められず、到達目標を達成したとは言い難い者については、Fとする。											
----- 地域情報学概論 (2)へ続く -----											

地域情報学概論 (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

次回の講義内容に応じた予習(30分)と講義内容の復習(30分)をおこなうこと。

(その他(オフィスアワー等))

メール(yamaguchi.takayoshi.7u@kyoto-u.ac.jp)への連絡に基づいて個別に対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85201 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語 (初級) Thai I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】											
発音と声調の基礎が身についている。約100語の生活語彙と約20項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1．オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2．発音練習 母音、声調、子音											
3．第1課1．1～1．3 挨拶、国籍を紹介する、尋ねる											
4．第1課1けたの数字、											
5．第2課2．1～2．3 挨拶、名前を紹介する、尋ねる											
6．第2課2．4～3けたの数字 挨拶、否定の表現											
7．第3課3．1～3．3 職業を紹介する、尋ねる											
8．第3課3．4～3．6 完了、予定の表現											
9．第3課数字に関する表現											
10．第4課4．1～4．3 継続の表現											
11．第4課職業の表現											
12．第5課5．1～5．2 品詞と語順											
13．第5課5．3～親族名称 可能の表現											
14．総復習											
15．フィードバック											
【履修要件】											
効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
【成績評価の方法・観点】											
講義中の小テスト(およそ500点)、学期末テスト(およそ100点)を合計し、100点満点に換算して評価する。											
【教科書】											
宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』(大阪大学出版会) ISBN:978-4-87259-333-4 C3087											
----- タイ語 (初級)(2)へ続く -----											

タイ語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には、第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85202 LJ48									
授業科目名 <英訳>		タイ語 (初級) Thai II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 弓庭 育子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
【学習目的】 臨地研究に備えて、暮らしの中で交わされる基本的なタイ語会話の知識を身につける。											
【到達目標】 発音と声調の基礎が身についている。約200語の生活語彙と約38項目の基本文法が身についている。生活場面や話題に応じたタイ語表現を用いて意思疎通を図れる。											
【授業計画と内容】											
【学習方法】 講義形式による文法解説、単語、例文の口頭練習、文法事項の反復練習、ロールプレイ活動を行う。											
【学習内容：会話】											
1. オリエンテーション 学習内容、方法、テキスト、評価方法の確認											
2. 第6課6.1~6.2 指示代名詞											
3. 第6課6.3~6.4 程度の表現											
4. 第6課味覚表現											
5. 第7課7.1~7.2 希望、要求の表現											
6. 第7課7.3~7.5 許可の表現											
7. 第7課交通機関の名称											
8. 第8課8.1~8.2 指示形容詞											
9. 第8課8.3~8.4 義務の表現											
10. 第8課時刻の表現											
11. 第9課9.1~9.2 順序の表現											
12. 第9課9.3~方向、方角の表現											
13. 第10課10.1~10.2 目的の表現											
14. 総復習											
15. フィードバック											
【履修要件】											
タイ語I(初級)を履修していることが望ましい。 効果的に語学を習得するため、履修期間中は 全講義に出席し、 テキスト付録のCDを用いてタイ人の発音をまねること、を学習習慣にすること。											
----- タイ語 (初級) (2)へ続く -----											

タイ語（初級）(2)

[成績評価の方法・観点]

講義中の小テスト（およそ500点）、学期末テスト（およそ100点）を合計し、100点満点に換算して評価する。

[教科書]

宮本マラシー・村上忠良 『大阪大学外国語学部 世界の言語シリーズ9 タイ語』（大阪大学出版会）ISBN:ISBN:978-4-87259-333-4 C3087

[参考書等]

（参考書）

中島マリン著 赤木攻監修 『挫折しないタイ文字レッスン』（めこん）ISBN:4-8396-0197-6 C0387
（タイ文字の個人学習に関心のある学生に勧める）

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：テキスト付録のCDを活用してタイ語の発音に親しむこと。

復習：既習内容はテキストを用いて見直し、CDで繰り返し発音を真似て再現を試みること。

（その他（オフィスアワー等））

上述と異なる学習レベルや学習内容を希望する場合には第1回目授業日のオリエンテーションにて申し出ること。可能であれば対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85204 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語 (初級) Indonesian I				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
インドネシア語に関する基礎知識を習得し、基本的な運用能力の養成を目的とする。基本的には、インドネシア語の学習歴の無い者を対象とする。											
【到達目標】											
日常会話での慣用表現の発話・聞き取りができるようになる。また、基本的な文の創出ができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、第1回、第2回、第8回、第14回を除いて、毎回授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。 また、第8回および第14回に、それまで学習した内容を確認するためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.名詞文 2.発音と表記法 3.人称代名詞 4.基語動詞 5.ber-動詞 6.meN動詞 7.アスペクト、助数詞 8.確認テスト 9.疑問文、疑問詞 10.受動 11.時間表現 12.接尾辞 -an 13.接頭辞 pe-, peN- 14.確認テスト 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
語彙小テスト（10回、各5点）、確認テスト（2回、各25点）により評価する。											
----- インドネシア語 (初級) (2)へ続く -----											

インドネシア語（初級）(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）

授業中に適宜紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

初歩段階では語彙数を増やすことが最も重要である。従って初出単語の暗記を中心とする復習が必要。

（その他（オフィスアワー等））

第一回目の授業では、学習上必要な文献などの紹介を行う予定であるので、教科書や辞書を用意する必要は無い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85205 LJ48									
授業科目名 <英訳>		インドネシア語 (初級) Indonesian II				担当者所属・ 職名・氏名		京都外国語専門学校 専任講師 柏村 彰夫			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
インドネシア語Iでの学習内容を踏まえ、インドネシア語の運用能力の養成を目的とする。											
【到達目標】											
日常会話レベルの基本的表現の創出能力を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には教科書に則り、以下の項目について学習する。 なお、第1回、第2回、第8回、第14回を除いて、毎回授業冒頭に語彙に関する小テストを（全10回）実施する。 また、第8回および第14回に、それぞれ確認のためのテストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 程度の副詞、接頭辞 se- 2. 比較級、最上級 3. 接頭辞 ter- 4. 前置詞 5. 接続詞 6. 関係詞 yang 7. 接辞 peN-an、 per-an 8. 確認テスト 9. 複合語、接辞 ke-an 10. 命令文 11. meN-kan動詞、 meN-i 動詞 12. memper 動詞 13. 畳語 14. 確認テスト 											
【履修要件】											
インドネシア語 I (初級) の履修または同程度のインドネシア語能力を前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
語彙小テスト (10回、各5点)、確認テスト (2回、各25点) により評価する。											
----- インドネシア語 (初級) (2)へ続く -----											

インドネシア語（初級）(2)

[教科書]

森山幹弘・柏村彰夫 『『教科書インドネシア語』』（めこん）ISBN:4-8396-0159-3

[参考書等]

（参考書）
授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

語彙習得が重要であり、既出単語を身につけるための復習が重要となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85208 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ビルマ（ミャンマー）語I（初級） Myanmar I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 本行 沙織			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木3	授業 形態		使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ビルマ語の発音と文字、文の成り立ちを理解する。 ・基礎的な語彙を覚え、文型を身に付け、簡単な会話を繰り返し練習する。 ・特に正確な発音の習得に重点を置き、母語話者に“通じる”ビルマ語を目指す。 											
【到達目標】											
ビルマ語を正確に発音するとともに、基本的な読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション ミャンマーについて、ビルマ語の特徴、発音 第2回 文字1（基本字母、複合文字、母音記号、末子音を伴う音節の表し方、有音化と綴り字） 第3回 文字2（軽音音節の綴り、重ね文字、特殊な文字、不規則な読み方や不規則な綴り字、句読点、ビルマ数字、記号を書く順序） 第4回 第1課 それはココヤシの実です 第5回 第2課 元気です 第6回 練習問題1、第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません 第7回 第3課 私は豚肉のおかずが好きではありません、第4課 ご飯食べましたか？ 第8回 第4課 ご飯食べましたか？、練習問題2 第9回 第5課 マンダレーに行きます 第10回 第6課 何の仕事をしているんですか？ 第11回 練習問題3、第7課 十冊くらいあります 第12回 第7課 十冊くらいあります、第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです 第13回 第8課 シュエダゴン・パゴダに行きたいです、練習問題4 第14回 第9課 電気製品を売っている店はありますか？ 第15回 これまでの授業内容の復習											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての授業に出席すること。 ・授業時間外でも教科書に付属しているCDを積極的に聞き、ビルマ語の音に親しむこと。 											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況、小テスト(50点)、期末試験(50点)											
ビルマ（ミャンマー）語I（初級）(2)へ続く											

ビルマ(ミャンマー)語(初級)(2)

[教科書]

加藤昌彦『ニューエクスプレス+ ビルマ語』(白水社)ISBN:978-4560088142

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は特に必要ありませんが、復習を大切にしてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85209 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語 (初級) Vietnamese I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
初学者を対象に、ベトナム語についての基礎知識を身につけるための講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ベトナム語の文字の読み方を理解し、単語や文章を正しく読み上げることができる。 挨拶の表現や基本構文を用いて簡単な会話をすることができる。 言語の学習を通し、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
テキストに従い以下の計画で進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある。											
第1回 ガイダンス 第2 - 4回 ベトナム語の文字と発音、挨拶と自己紹介 第5 - 6回 7課 第7 - 8回 8課 第9 - 10回 9課 第11-12回 10課 第13-14回 11課 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 その他、授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』（アルク）ISBN:978-4757424173 吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』（アルク）ISBN:978-4757430877 その他、授業中に適宜紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
予習 ・テキストに目を通し、付属のCD音声を聞いておく。 復習 ・CD音声を再生しながら、本文を音読する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85210 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語 (初級) Vietnamese II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉本 康子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ベトナム語の文字の読み方を理解し、挨拶や自己紹介、基本構文を用いた初歩的な会話が可能なレベルの学生を対象に、現地調査を実施する際に必要となる基礎的なベトナム語の習得を目的とした講義を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ベトナム語の基本的な文法を理解し、簡単な文章を読むことができる。 現地での生活や調査において必要な単語やフレーズを習得し、簡単な会話をするすることができる。 言語の学習を通して、ベトナムの社会と文化についての理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
テキストに従って以下の計画を進めるが、状況に応じて多少変更する場合もある											
第1－2回 12課 第3－4回 13課 第5－6回 14課 第7－8回 15課 第9－10回 16課 第11－12回 17課 第13－14回 18課 第15回 　　まとめ											
【履修要件】											
ベトナム語 を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価。											
【教科書】											
清水政明 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』（大阪大学出版会）ISBN:978-4-87259-328-0 授業中にプリントを配布する。											
----- ベトナム語 (初級) (2)へ続く -----											

ベトナム語 (初級)(2)

[参考書等]

(参考書)

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[入門編]』 (アルク) ISBN:978-4757424173

吉本康子・今田ひとみ 『キクタン ベトナム語[初級編]』 (アルク) ISBN:978-4757430877

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習

- ・ 本文に目を通し、テキスト付属のCD音声を聞いておく。

復習

- ・ CD音声を再生しながら、本文を音読する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85211 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ベトナム語 (中級) Vietnamese III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
参加者が博士予備論文(修士論文)執筆のために使用するベトナム語資料を日本語に訳す練習を行い、ベトナム語の文章の読解力向上をはかる。											
【到達目標】											
新聞や論文の読解を通じて、辞書なしで概要を理解できるようにする。											
【授業計画と内容】											
履修者は毎回予習をして授業に臨むこと。											
【履修要件】											
ベトナム語初級の既習者対象 ベトナム語文献を日本語に訳す練習を行うので、それに見合った日本語能力をもつ者に限る。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価											
----- ベトナム語 (中級) (2)へ続く -----											

ベトナム語 (中級) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、ベトナム語テキストを日本語に訳してから授業に出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85221 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (初級) Arabic I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の基礎文法の習得を目指します。											
【到達目標】											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
アラビア語の基礎文法について次の事項を中心に学びます。 (1) アラビア語の概説 (2) 文字と発音 (3) 品詞分類 (4) 名詞の性・数・格変化(イウラーブ) (5) 人称代名詞・指示代名詞 (6) 名詞文 (7) 名詞の修飾関係 (8) 属格連結(イダーファ) (9) 関係形容詞(ニスバ) (10) 語根の概念と動詞の原型 (11) 動詞の種類 (12) 動詞の活用(完了形) (13) 派生語 (14) 行為者名詞・受動名詞 (15) 動詞の活用(未完了形)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(出席および授業中に出される課題)											
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----											

アラビア語（初級）(2)

[教科書]

小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018）

[参考書等]

（参考書）

小杉泰・岡本多平・竹田敏之『京大式 実践基礎単語1300』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・附属イスラーム地域研究センター（KIAS）・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）、2012.）

竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』（白水社、2013.）

竹田敏之『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019）

[授業外学修（予習・復習）等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

（その他（オフィスアワー等））

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85222 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (初級) Arabic II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界の共通語であり、中東・北アフリカの主要言語である現代アラビア語の文法理解をさらに深め、読解力の向上を目指します。											
【到達目標】											
アラビア語の単語や文をしっかりと形態的・文法的に解析できるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>文法については次の事項を中心に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 受動態 (2) 動詞文 (3) 動詞の用法 (接続法・要求法) (4) 命令形 (5) 助詞の用法 (6) 比較級・最上級 (7) 対格の特殊用法 (8) 完全動詞と不完全動詞 (9) カーナの用法と動詞の時制 (10) 派生形 (11) 正動詞と弱動詞 (12) インナとその姉妹語 (13) 関係代名詞 (14) 条件文 (15) 数詞の用法 											
【履修要件】											
アラビア語 を履修済みであること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点 (出席および授業中に出される課題)											
----- アラビア語 (初級) (2)へ続く -----											

アラビア語（初級）(2)

[教科書]

小杉泰・岡本多平・竹田敏之・ハシャン・アンマール『現代中東地域研究のためのアラビア語：実践文法と用例』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター（KIAS）・ハダーリー・イスラーム地域研究センター、2018）

[参考書等]

（参考書）

小杉泰・岡本多平・竹田敏之『京大式 実践基礎単語1300』（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・附属イスラーム地域研究センター（KIAS）・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）、2012.）

竹田敏之『アラビア語表現 とことんトレーニング』（白水社、2013）

竹田敏之『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』（ナカニシヤ出版、2019）

[授業外学修（予習・復習）等]

各課の練習問題と読解について十分な予習を行ってこること。

（その他（オフィスアワー等））

教科書については、初回の授業で説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85223 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (中級) Arabic III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。											
【到達目標】											
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3~4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。											
【履修要件】											
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席および授業中のパフォーマンス）。											
【教科書】											
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 (Turath, Bayrut, 2005.)											
【参考書等】											
(参考書)											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 アラビア語実践マニュアル』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS)・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2011.)											
竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』 (白水社、2013)											
竹田敏之 『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』 (ナカニシヤ出版、2019)											
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。											
(その他(オフィスアワー等))											
教科書については、初回の授業で説明します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85224 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アラビア語 (中級) Arabic IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 竹田 敏之 特任准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アラビア語Ⅲに引き続き、多様なアラビア語文献を読みつつ、プラクティカルな読解力を養うことを目的とする。アラビア語を読むコツのようなものをできるだけ多く紹介したい。											
【到達目標】											
原文の統語的な分析と、正確な訳出ができるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
授業で読む文献は受講者と相談の上、決定する。なるべく、受講者が研究上、読む必要のあるものを採用したい。原則として、3~4回ごとに文献を変えていく。毎回の授業では、受講者がそれぞれの担当箇所を音読し、その翻訳案を提示する。											
【履修要件】											
アラビア語の基礎文法を一通り学習していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席および授業中のパフォーマンス）。											
【教科書】											
Yusuf Ibish and Yasushi Kosugi, eds., 『Turath al-Fikr al-Siyasi al-Islami』 (Turath, Bayrut, 2005.)											
【参考書等】											
(参考書)											
小杉泰・岡本多平・竹田敏之 『京大式 アラビア語実践マニュアル』 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 グローバル地域研究専攻・京都大学イスラーム地域研究センター (KIAS)・若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)、2011)											
竹田敏之 『アラビア語表現 とことんトレーニング』 (白水社、2013)											
竹田敏之 『現代アラビア語の発展とアラブ文化の新時代：湾岸諸国・エジプトからモーリタニアまで』 (ナカニシヤ出版、2019)											
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講読する箇所について十分な予習を行ってこること。											
(その他(オフィスアワー等))											
教科書については、初回の授業で説明します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85227 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ペルシア語 (初級) Persian I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ペルシア語は、アラビア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。											
【到達目標】											
ペルシア語の基本文法を習得し、初級の講読ができるようになると同時に、現地に行った際、最低限の会話ができるレベルを目標とする。											
【授業計画と内容】											
テキストに基づき毎週進み、ペルシア語初級文法を半年で習得する。毎回、基本文と単語を暗記してもらい、小テストを行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。											
【教科書】											
岡崎正孝 『基礎ペルシア語』(大学書林) ISBN:4-475-01046-2 岡田恵美子 『ペルシヤ語基本単語2000』(語研) ISBN:978-4-87615-663-4											
【参考書等】											
(参考書) 黒柳恒男 『ペ日・日ペ 現代ペルシア語辞典(合本)』(大学書林) その他、授業中に紹介する。											
【授業外学修(予習・復習)等】											
テキストは毎回予習することが必要である。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、小テストを行うため、十分な予習・復習が必要である。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85228 LJ48									
授業科目名 <英訳>		トルコ語 (初級) Turkish I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 IDIRIS DANISMAZ			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
トルコ語は、アラビア語・ペルシア語と並んでイスラーム世界の主要言語である。その基本的文法を半年間で講じる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。											
【到達目標】											
本講義では、文法と会話を中心にその習得につとめる。初級テキストが読解できるようになることと、現地に行って最低限の会話ができるようになることが目的である。プラクティカル・ランゲージ習得のために、この講義では相当数の単語を暗記してもらうので、受講者はあらかじめ心の準備をしておいてもらいたい。											
【授業計画と内容】											
テキストに基づき毎週進み、トルコ語初級文法を半年で習得する。毎回、基本文と単語を暗記してもらい、小テストを行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
小テストを含む平常点で採点するが、必要に応じて期末試験を実施する可能性もある。											
【教科書】											
林徹 『トルコ語文法ハンドブック』 (白水社) ISBN:978-4-560-08621-6											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
語学は絶え間ない予習と復習の繰り返しによってしか習得できない。各回の予復習には相当の時間をかけてほしい。また、単語力の増強も狙っているので、その暗記も必要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85229 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語 (初級) Hindi I				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 専任講師 小松 久恵			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 文字と発音【4週】 3. 文法と会話【9週】 4. 中間試験【1週】 5. 中間試験フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(40%)と筆記試験(期末60%)によって評価する。											
【教科書】											
町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』(白水社) ISBN:978-4-560-06791-8(同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと)											
----- ヒンディー語 (初級)(2)へ続く -----											

ヒンディー語 (初級)(2)

[参考書等]

(参考書)

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関連の情報に関心をもつこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85230 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語 (初級) Hindi II				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 専任講師 小松 久恵			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初頭文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
後期											
1．文法と会話【8週】											
2．文法と絵本・新聞講読【5週】											
3．期末試験【1週】											
4．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(40%)と筆記試験(期末60%)によって評価する。											
【教科書】											
町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』(白水社) ISBN:978-4-560-06791-8(同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと)											
----- ヒンディー語 (初級)(2)へ続く -----											

ヒンディー語（初級）(2)

[参考書等]

（参考書）

辞書については初回の授業で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85231 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語III (中級) Hindi III				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、研究に必要なテキストを正確に理解できるよう、ヒンディー語の中級および中上級文法を導入し、読解力や作文能力の向上を目指す。また、必要に応じ、映像・音声メディアも利用し読解力と相関関係にある聴解力の向上も図る。											
【到達目標】											
短めの読み物を辞書を使いながら読んだり、簡単な会話文を理解することができる。 単文および簡単な複文使って、日常会話レベルで意思疎通に困らない程度の自己表現ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。 第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話など 第6～10週目：短編：インド神話、新聞記事など 第12～15週目：TVドラマのシナリオ、会話集など なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。											
【履修要件】											
語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加 (40%) 期末試験あるいはレポート (60%)											
【教科書】											
授業中にコピーを配布											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIKuvqVPTa7g (Hindi Fairy Tales) https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw (Akbar Birbal Stories)											
----- ヒンディー語III (中級) (2)へ続く -----											

ヒンディー語Ⅲ（中級）(2)

https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)

<http://www.bbc.com/hindi>(BBC Hindi)

<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak)

<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))

http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))

<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran (インドのヒンディー語新聞))

https://publication.aa-ken.jp/hindi_sentence_patterns2016.pdf(『初級ヒンディー語文型練習帳』)

https://publication.aa-ken.jp/hindi_conversation2016.pdf(『初級ヒンディー語 会話編』)

https://publication.aa-ken.jp/hindi_grammar2016.pdf(『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)

<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85232 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語Ⅳ（中級） Hindi IV				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、研究に必要なテキストを正確に理解できるよう、ヒンディー語の中級および中上級文法を導入し、読解力や作文能力の向上を目指す。また、必要に応じ、映像・音声メディアも利用し読解力と相関関係にある聴解力の向上も図る。											
【到達目標】											
長い文章を読んで理解し、内容を把握できるようになる。 簡単な説明文を聞いて理解することができる。 単文および簡単な複文使って、日常会話レベルより少し高度な自己表現ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。 第1～5週目：(新聞記事、小話など) 第6～10週目：(TVドラマのシナリオ、会話集など) 第12～15週目：(現代小説、概説書など) なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。											
【履修要件】											
語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）											
【教科書】											
授業中にコピーを配布											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIKuvqVPTa7g (Hindi Fairy Tales) https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw (Akbar Birbal Stories)											
----- ヒンディー語Ⅳ（中級）(2)へ続く -----											

ヒンディー語Ⅳ（中級）(2)

https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg(Panchatantra Stories in Hindi)

<http://www.bbc.com/hindi>(BBC Hindi)

<https://www.youtube.com/user/aajtaktv>(Aaj Tak)

<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))

http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))

<http://www.jagran.com/>(Dainik Jaagaran (インドのヒンディー語新聞))

https://publication.aa-ken.jp/hindi_sentence_patterns2016.pdf(『初級ヒンディー語句型練習帳』)

https://publication.aa-ken.jp/hindi_grammar2016.pdf(『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』)

https://publication.aa-ken.jp/hindi_conversation2016.pdf(『初級ヒンディー語 会話編』)

<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85234 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シンハラ語 I (初級) Sinhala I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
シンハラ語の正しい発音に加え、日常会話に必要な語彙や基本文法を身につける。											
【到達目標】											
シンハラ語の正しい発音ができる。また、場面に適した日常会話ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
1. オリエンテーション 2. シンハラ文字と発音 3. あいさつと自己紹介 4. 近況を尋ねる、こたえる 5. 提案・勧誘、指示語 6. 禁止・容認 7. 数に関する表現 8. 必要・原因・願望 9. 強調表現 10. 場所、時間、位置、時期 11. 抽象名詞 12. 比較表現 13. 推量表現 14. 総復習											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(70%)と期末テスト(30%)で評価します。											
【教科書】											
野口忠司『ニューエクスプレス シンハラ語』(白水社) ISBN:978-4-560-08722-0											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
テキスト附属のCDを活用して発音の練習をすること。 また、授業で扱った主要な文章や表現は、授業後口にして繰り返し言うなどして身につける努力をすること。											
(その他(オフィスアワー等))											
具体的な要望があれば、授業の初日に申し出てください。可能な範囲で対応します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85235 LJ48									
授業科目名 <英訳>		シンハラ語 I I (初級) Sinhala II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークでの応用を念頭に、より実践的なシンハラ語の習得を目指す。またシンハラ語の基本的な読解能力をみにつける。											
【到達目標】											
簡単なシンハラ語の文章が読める。調査に必要な語彙や表現を身につけている。研究内容等について、簡単にシンハラ語で説明することができる。											
【授業計画と内容】											
1～5回 絵本の購読を通じて、シンハラ語を基礎的な読解能力をみにつける 6～10回 調査研究に必要な語彙や表現をみにつける 11～14回 研究内容の簡単な説明をシンハラ語に翻訳し、練習する 15回 総復習											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(70%)と期末試験(30%)で評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
語彙を増やすため、授業とは別に『シンハラ語基礎1500語』(野口忠司著)などを用いて単語の暗記につとめてください。 普段からシンハラ語で伝えたり聞いたりしたい内容を考えてメモをとり、授業で積極的に質問できるように準備しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
具体的な要望があれば、授業の初日に申し出てください。可能な範囲で対応します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85238 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ネパール語II (初級) NepaleseII				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 非常勤講師 橋 健一			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
ネパール語の読み書き、文法の基礎、会話能力を身につける。											
【到達目標】											
ネパール語の読み書き、文法の基礎、会話能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
参加者の習熟度を確認しつつ、適宜、計画と内容を決定する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点と小テストによる。											
【教科書】											
下記、関連URL情報を参照。その他、習熟度に応じて、別のテキストを用いる。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/81968/1/A214.pdf.PDF(石井溥著「東京外国語大学 ネパール語 研修テキスト ネパール語文法・練習」を教科書として使用する。各自でダウンロードすること。)											
http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/82688(石井溥著「東京外国語大学 ネパール語語彙集」を教科書として使用する。各自でダウンロードすること。)											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA05 85241 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語 (初級) Swahili I				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>バンツー諸語に属すスワヒリ語はタンザニアおよびケニアの国家語であり、東アフリカを代表する共通語である。バンツー諸語の特徴である名詞クラスなどのスワヒリ語の標準文法、語彙、文型に加えて実際の会話表現も学ぶことで、基本的な文法事項の習得と日常的な会話の理解をめざす。テキストを用いた会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行うことで、自分で文を組み立てる能力を身につける。付属CDを利用して発音を学び、スワヒリ語の会話を聞き取り自ら表現する能力を向上させる。ただし難解な文ではなく日常会話の中で使用される具体的な表現を目標とする。また、テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。その背景についての補足説明によって、東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。関連する実物や画像は授業中に紹介される。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の名詞クラスと基本文型を理解する 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れを把握できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション / スワヒリ語文法の概要 第2回 第1課 / 現在時制 第3回 第2課 / コピュラ文 第4回 第4課 / 所有表現 第5回 第5課 / 未来時制 第6回 名詞クラス 第7回 第3課 / 存在表現 第8回 第1～5課の復習と補足説明 第9回 第6課 / あいさつ表現 第10回 第7課 / 過去時制 第11回 第8課 / 完了時制 第12回 第9課 / 形容詞 第13回 第10課 / 接続形 第14回 第6～10課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック</p> <p>なお、授業の進度は適宜調整する</p>											
----- スワヒリ語 (初級) (2)へ続く -----											

スワヒリ語（初級）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

予習・復習状況などの平常点（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

【教科書】

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85242 LJ48									
授業科目名 <英訳>		スワヒリ語 (中級) Swahili II				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井戸根 綾子			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>テキストはスワヒリ語初級と同じものを引き続き使用し、会話形式の文章の解説と共に文法説明と作文練習を行う。スワヒリ語初級で習得した内容を再確認しながら、さらなる文法事項や新たな語彙・慣用表現を学ぶことで、総合的な読解力と基礎的な表現力の習得をめざす。テキストの基本的な表現に基づいた応用練習を行うことで、スワヒリ語を用いて自ら表現する技能を習得することができる。テキストの会話表現には社会的・文化的事象が多く含まれる。スワヒリ語独特の表現をより理解するためにその社会・文化的背景についても説明し、関連する実物や画像を紹介する。これにより東アフリカの言語だけでなく文化や社会についての知識も深める。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1：スワヒリ語の基本文法を総合的に理解し、口語的・実践的な表現の理解を向上させる 2：習得した文法事項や文型を自分で文に組み立てて話することができる 3：短い日常会話の流れ全体を把握して、その内容を要約できる 4：東アフリカの文化や社会に関する知識を深める 											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン / 第1～10課の復習 第2回 第11課 / 時間 第3回 第12課 / 指示詞 第4回 第13課 / 使役 第5回 第14課 / 条件節 第6回 関係節 第7回 第15課 / 受身 第8回 第11～15課の復習と補足説明 第9回 第16課 / 相互形 第10回 第17課 / 仮想時制 第11回 第18課 / 複合時制 第12回 第19課 / ことわざ・なぞなぞ 第13回 第20課 / 手紙の書き方 第14回 第16～20課の復習と補足説明 第15回 期末試験 第16回 フィードバック なお、授業の進度は適宜調整する											
【履修要件】											
特になし											
----- スワヒリ語 (中級) (2)へ続く -----											

スワヒリ語（中級）(2)

[成績評価の方法・観点]

予習・復習状況などの出席状況（30%）、期末試験の結果（70%）により、総合的に判断する。なお、3分の2以上の出席率を必須とし、それに満たない場合は授業放棄とみなす。

[教科書]

竹村景子『ニューエクスプレス+ スワヒリ語』（白水社）ISBN:978-4-560-08805-0

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の各レッスンの予習・復習は必須とする。
各レッスンのスキットについては、予め付属のCDを聴いておくこと。
文法事項についての補足プリントや練習問題のプリントは授業中に配布する。
練習問題で宿題となったものについては、次週までに予習・復習をしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA05 85243 LJ48									
授業科目名 <英訳>		アムハラ語 (初級) Amharic I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 特定准教授 西 真如			
配当 学年	1-5回生	単位数	1	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
アムハラ語は、エチオピアにおける主要言語のひとつである。独自の文字を有し、同国のアムハラ州や、首都アジスアベバをはじめとする都市を中心に広く通用する。本講義では、エチオピアでのフィールド実習を希望する者を対象にアムハラ語の基礎的な会話、文法、文字、に加えて、言語の使用と関連した地域文化を扱う。											
[到達目標]											
アムハラ語の基礎的な会話、文法および文字の習得を目指すとともに、言語の使用と関連した地域文化への理解を深めてもらう。											
[授業計画と内容]											
毎回の授業は、次のテーマを1つ以上含む。 1. 基礎的な会話を習得する 2. 会話の習得に必要な文法を理解する 3. 文字を習得する 4. 言語使用と関連したエチオピアの歴史や政治的背景についての理解を深める											
[履修要件]											
受講希望者は、具体的な講義内容について登録前に講師に相談して下さい。											
[成績評価の方法・観点]											
出席と授業への参加状況にもとづいて評価する。											
[教科書]											
若狭基道 『ニューエクスプレス アムハラ語』 (白水社)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
会話や文法を確実に身につけるための復習を行う。											
(その他(オフィスアワー等))											
講義についての相談・問い合わせは<nishi@asafas.kyoto-u.ac.jp>宛にお願いします。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											